

# 王への手紙<上><下>

ドラフト作 西村由美訳 岩波書店

遠い昔、まだ騎士たちがいたころ。騎士叙任式の前夜、十六歳のティウリは、騎士見習い最後の試練として礼拝堂で寝ずに祈り過ごしていた。突然現れた、見知らぬ男に生死にかかわる件で、と助けを求められたティウリは、男から託された手紙を白い盾の黒い騎士に届けに行く。しかし、騎士は何者かに襲われ、死の間際にその手紙を隣国ウナーヴェンの王へ届けてほしいとティウリに頼む。騎士は何者なのか？ 手紙には何が書かれているのか？ 敵も味方もわからぬまま、ティウリは旅立った…。

